

テーマ：消費者物価（全国1月、東京都区部2月） 発表日：2009年2月27日（金）
 ～夏には▲2%を越えるマイナスに～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

(単位：%)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	携帯電話通信料	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	石油製品	携帯電話通信料
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
07	1月	0.0	0.0	▲0.2	3.4	▲0.2	0.1	0.2	0.1	2.6	▲0.2
	2月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.6	▲2.3	0.0	0.0	▲0.1	▲0.5	▲2.3
	3月	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲1.4	▲4.1	0.1	▲0.1	▲0.3	▲1.4	▲4.1
	4月	0.0	▲0.1	▲0.2	▲0.6	▲4.1	0.1	0.0	▲0.2	0.0	▲4.1
	5月	0.0	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲4.1	0.0	0.0	▲0.2	▲0.1	▲4.1
	6月	▲0.2	▲0.1	▲0.4	1.4	▲4.1	▲0.2	▲0.1	▲0.3	2.5	▲4.1
	7月	0.0	▲0.1	▲0.5	2.1	▲4.1	▲0.1	▲0.1	▲0.3	3.1	▲4.1
	8月	▲0.2	▲0.1	▲0.2	0.4	▲4.1	▲0.3	0.0	▲0.2	0.7	▲4.1
	9月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.3	▲4.1	▲0.1	▲0.1	▲0.3	▲0.4	▲4.1
	10月	0.3	0.1	▲0.3	2.3	▲4.1	0.1	0.0	▲0.3	2.8	▲4.1
	11月	0.6	0.4	▲0.1	9.3	▲3.9	0.3	0.1	▲0.1	11.0	▲3.9
	12月	0.7	0.8	▲0.1	15.1	▲3.9	0.4	0.3	▲0.1	16.8	▲3.9
08	1月	0.7	0.8	▲0.1	15.6	▲4.0	0.3	0.4	0.0	17.1	▲4.0
	2月	1.0	1.0	▲0.1	17.5	▲2.0	0.4	0.4	▲0.1	18.8	▲2.0
	3月	1.2	1.2	0.1	18.2	▲0.1	0.6	0.6	0.1	19.7	▲0.1
	4月	0.8	0.9	▲0.1	6.9	▲0.1	0.6	0.7	0.0	4.6	▲0.1
	5月	1.3	1.5	▲0.1	17.6	▲0.1	0.9	0.9	0.1	18.3	▲0.1
	6月	2.0	1.9	0.1	23.9	0.7	1.5	1.3	0.3	24.6	0.7
	7月	2.3	2.4	0.2	28.8	0.7	1.6	1.6	0.3	28.9	0.7
	8月	2.1	2.4	0.0	28.0	0.7	1.3	1.5	0.2	26.8	0.7
	9月	2.1	2.3	0.2	23.7	0.7	1.4	1.7	0.5	22.6	0.7
	10月	1.7	1.9	0.2	15.0	0.7	1.2	1.5	0.4	11.6	0.7
	11月	1.0	1.0	0.0	▲3.8	0.8	1.1	1.1	0.2	▲9.3	0.8
	12月	0.4	0.2	0.0	▲17.4	0.8	0.8	0.8	0.2	▲22.1	0.8
09	1月	0.0	0.0	▲0.2	▲23.4	0.8	0.5	0.5	▲0.3	▲28.3	0.8
	2月	—	—	—	—	—	0.5	0.6	▲0.1	▲24.6	0.8

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○ 前年比ゼロ%

09年1月の全国消費者物価指数（生鮮食品除く）は前年比0.0%となった。12月の同+0.2%から伸びが縮小したが、コンセンサス（同▲0.1%、レンジ▲0.3%～+0.1%）は若干上回っている。また、09年2月の東京都区部は同+0.6%と前月の同+0.5%から伸びが小幅拡大した。こちらもコンセンサス（同+0.3%、レンジ+0.1%～+0.5%）を上回った。

なお、今月の全国CPIコアに関しては、品目別にみると前月から低下しているものが多く、個別の品目寄与を足しあげて計算すると先月から▲0.36%ポイント伸びが低下する形になる（公表値では▲0.2%ポイント）。予想上振れの背景には、指数算出における四捨五入の関係があるのかもしれない。

○ 5月以降はマイナス幅が急速に拡大する見込み

全国、東京都とも事前予想を上回ったが、物価が低下トレンドにあることには変わらない。東京都区部の動向から判断すると、2月の全国CPIコアは前年比▲0.1%～0.0%が予想される。2月にマイナスになるかどうかは微妙なところだが、遅くとも3月にはマイナス転化するだろう。

その後もマイナス圏での推移が続くと予想されるが、特に5月以降の下落ペースはかなり急速なものに

なる可能性が高い。前年（08年）の同時期において上昇ペースが極めて急だったことから、前年比で見れば石油製品価格はマイナス寄与が急拡大、食料品価格もプラス寄与が急速に縮小することになる。過去の原油・穀物価格の下落を反映する形で、5月に電気・ガス代の大幅値下げ、4月に政府の輸入小麦売渡価格の引き下げが行われることなども影響するだろう。また、こうした資源価格急落による物価下落に加えて、景気の急激な悪化を受けて需給ギャップが大きく拡大していくにつれて、物価には追加的な下押し圧力が加わると考えられる。実際、1月のエネルギー及び食料品を除くC P Iが前年比▲0.2%と前月の同0.0%から低下するなど、既にその兆しは出始めている。

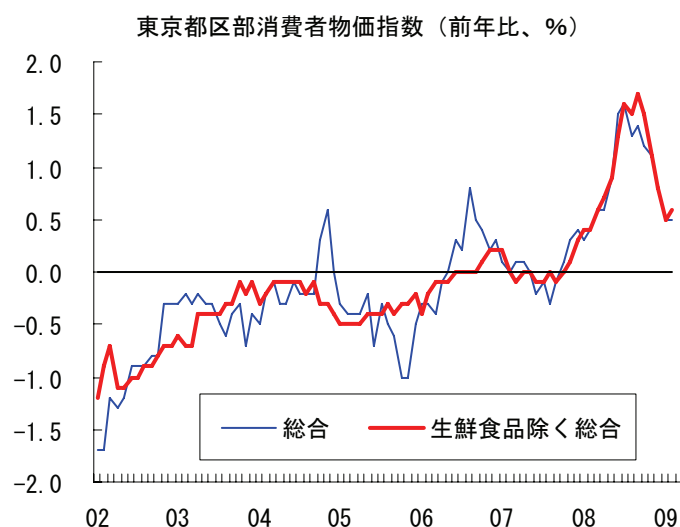
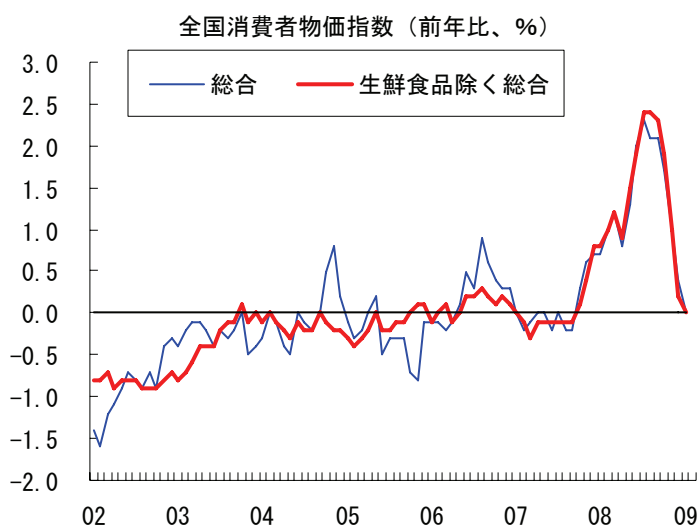
C P Iのマイナス幅が最も大きくなるのは09年夏場と予想され、その時期には前年比で▲2%を越えるマイナスになる可能性が高い。原油価格や為替レート、食料品価格の動向次第では、マイナス幅が▲3%近くに達する可能性もあるだろう。物価下落は、一般に思われている以上のペースで進む可能性が高い。景気悪化に伴う需給バランスの悪化と資源価格下落によって、09年にはデフレ色がかなり強まるとみられ、当社では、09年度のC P Iコアは前年比▲1.9%と、大幅に下落すると予想している。

○景気悪化に伴う物価下落が進みつつある

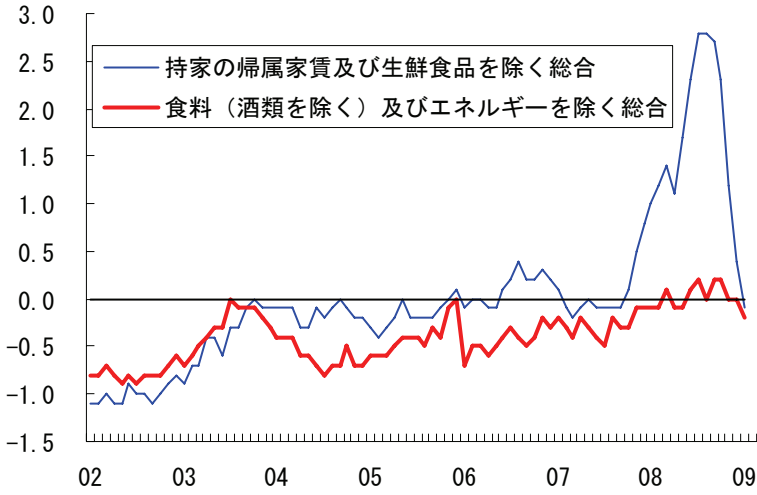
1月の全国消費者物価は前年比0.0%と、12月の同+0.2%から鈍化した。過去の燃料価格上昇が遅れて反映される電気・ガス代で大幅引き上げがあったことや、出産入院料の値上げ、ルームエアコンの価格上昇などがプラスに寄与したものの、石油製品のマイナス寄与が拡大したことや食料品価格（生鮮除く）のプラス寄与が縮小した影響の方が大きかった。

1月の全国C P Iで最も注目されるのが、エネルギーと食料品除く総合が前年比▲0.2%（12月同0.0%）と下落に転じたことである。外国パック旅行や宿泊料の低下寄与が比較的大きかったほか、衣料品の値引きが目立っている。そのほかにも、前月から伸び率が縮小（下落幅拡大）している品目が増えてきており、物価下落が広がりを持ち始めていることが示唆されている。今後も、08年後半以降の景気の急速な悪化を受けてマイナス幅が大きく拡大していくことが予想される。

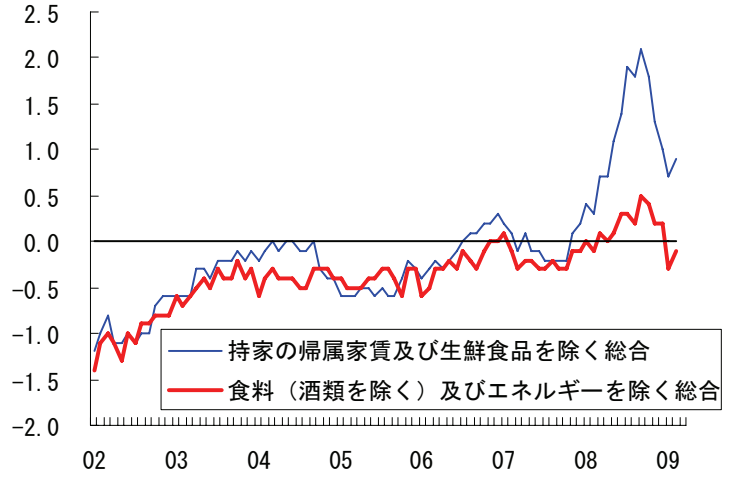
2月の東京都区部は前年比+0.6%と、1月の同+0.5%から伸びが高まった。ガソリン価格の急落が一服したことで石油製品のマイナス寄与が縮小したことや、1月に大幅下落していた衣料品が一時的に持ち直したなどが影響している。生鮮除く食料品は引き続きプラス寄与が縮小した。また、エネルギーと食料品除く総合は前年比▲0.1%となった。低下幅は前月（同▲0.3%）から縮小しているが、2ヶ月連続のマイナスである。



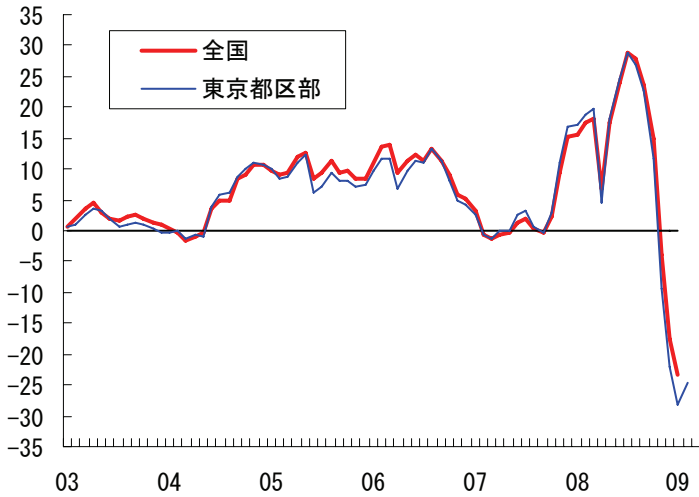
全国消費者物価指数（前年比、%）



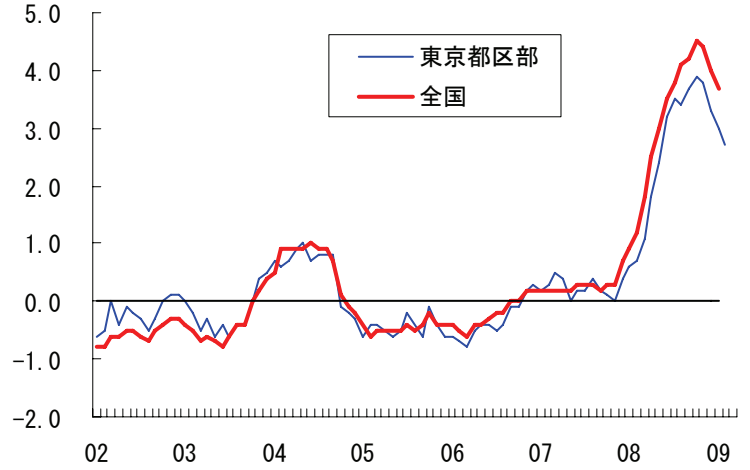
東京都区部消費者物価指数（前年比、%）



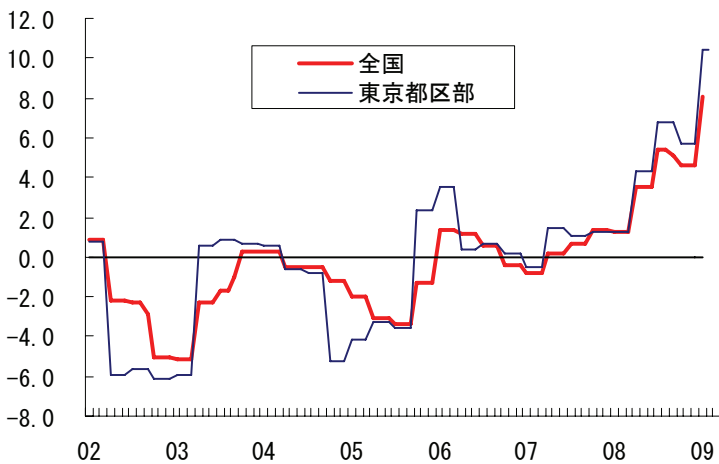
石油製品（前年比、%）



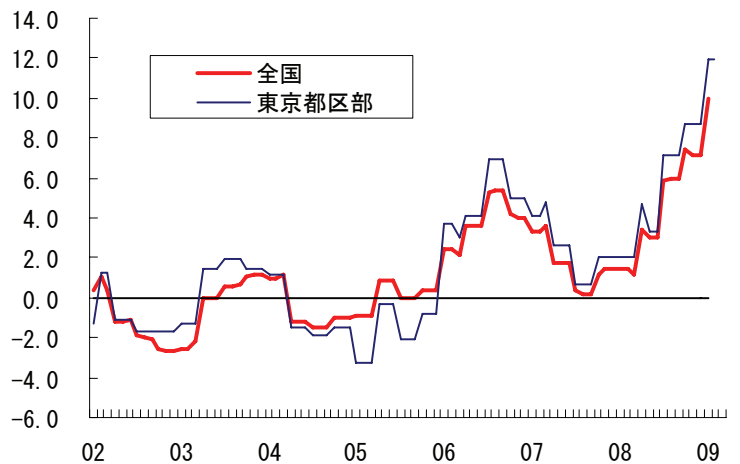
生鮮食品を除く食料（前年比、%）



電気代（前年比、%）



都市ガス代（前年比、%）



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

